

ロシアはウクライナ侵略止めよ

デモ行進の先頭を歩く坂本ひろし
共産党県書記長 3月22日



小矢部市議会は3月4日開会し、「ロシアのウクライナ侵略を非難し平和解決を求める決議」を全会一致で採択し、ロシア大使館に送付しました。

「ウクライナ侵略は暴挙、平和的解決を」 ロシア大使館に送付

小矢部市議会は3月4日開会し、「ロシアのウクライナ侵略を非難し平和解決を求める決議」を全会一致で採択し、ロシア大使館に送付しました。

高岡駅前をデモ行進

ロシアのウクライナ侵略抗議デモ実行委員会の呼びかけで、3月22日「ロシアは侵略を止めよ」と120名が高岡駅前をデモ行進しました。小矢部市を含む西地域全体から市民が駆けつけました。商店街の人が熱烈に手を振り、下校中の高校生も「がんばって」と声を掛けて激励しました。

市も経費節減努力 千数百万円

砂田市議は「昨年は受水量6%削減で830万円の経費縮減があった。新年度から隔月検針隔月徴収で600万円の経費節減になる。」と述べた。そのうえ今年も受水量が1.6%下がり約200万円助かるから、県水受水料金値下げ分を水道料金値下げにまわらせるはずだ」と迫りました。

3月議会報告 砂田市議の一般質問

上水道料金の値下げを

県企業局が小矢部市など4市に水道用水を供給しています。その料金制度が2月県議会で改定されました。県の値下げ分を市の水道料金値下げにまわすよう砂田市議が3月議会でも取り上げました。

県企業局 市に1400万円値下げ

県企業局の料金改定で小矢部市には1400万円が値下げされます。受水量も1.6%減となり、一方老朽管更新も必要で、現時点では十分な値下げができませんでした。砂田市議は今回も水道料金値下げにまわすよう求めました。



地球温暖化対策 2030年までがカギ 思い切った二酸化炭素排出削減を

小矢部市は2050年には二酸化炭素排出ゼロを達成するというゼロカーボンシティ宣言をしましたが、問題はその本気度が問われています。

いま国際社会では2030年までに思い切った二酸化炭素排出の削減をしないと、取り返しのつかないことになる、危機感に燃えています。10年足らずの間に二酸化炭素排出を半分近くまで削減できるかどうか、人類の未来がかかっているのです。

【計画策定】 市民や市職員のリーダーシップを

市は22年度に地域再生可能エネルギー導入目標策定事業に取り組みます。砂田市議は「計画策定をコンサルタント業者だけに任せず、市職員も調査研究に携わって、職員としてアイデアをどんどん発揮するようすべき」と主張しました。

【断熱対策】 いまでできることはすぐやるべきだ

省エネについて砂田市議は「工場配管や住宅の断熱対策、窓の二重窓化も効果的だ」と強調し、次のように市役所の本気度を問題にしました。

【砂田市議】市役所北側の窓を取り替えたが、二重ガラスは割高だとして、一重ガラス戸に替えた。しかし、市役所の耐震化は解体・新築でなく、現庁舎を活かし耐震補強する計画だ。今やっっておけば、無駄なく断熱効果を高められた。今できることは何かという真剣な姿勢、本気度が問われている。



公共施設の再編でも総合会館、旧保育所などを解体している。使える建物を壊してしまう公共施設の統廃合は、資源の浪費、地球温暖化防止にも反する。

県下初の高齢難聴者に補聴器助成 聴力検査で早く気付くように

小矢部市が県内で初の高齢難聴者への補聴器補助制度を予算化しました。聞こえづらくなると、社会から遠ざかり、引きこもったりして、認知症になるのを防ぐことが期待されています。砂田市議は住民健診、節目健診などで聴力検査を行い、聴力の衰えに早く気付く、対策をとれるようにすることを求めました。



民生部長は「大切だと認識している。先進事例や医師会、専門医の意見を伺い、調査研究したい」と答えました。

子どものインフルエンザ予防接種 1回千円を3千円に戻せ

砂田市議は予算特別委員会で、子どものインフルエンザ予防接種助成を1回1千円に削るのでなく、今年冬に3千円に戻すことを提案しました。

これは多子世帯の負担軽減、子育て応援になります。

コロナの影響か、この2年、インフルエンザが流行していません。とはいえインフルエンザに対する免疫力が低下しています。これを補うにはこの予防接種が重要です。

民生部長は「インフルエンザが流行時期となる10月頃にどうなっているか、その見極めも必要である。それによっては3千円が良いのか、2千円が良いのかということもある。コロナの感染状況も注視しながら検討したい」と答えました。

